

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

夢に向かってともに歩み 未来を拓く日下小学校  
 知: 考えてよく励み やりぬく子を育てます。  
 徳: なかよくつよくのびゆく子を育てます。  
 体: 健康な肩を組み 互いのいのちと体を大切に育てます。  
 公・開: 自立の意気を見せ 日本の明日を担う子を育てます。

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

チャレンジする心  
 ・思いや願いをもって主体的に行動する。  
 人とつながる力  
 ・人とかかわりを大切にし、それをつ  
 ないたり、広げたりする力を育てる。

#### 具体化した資質・能力

#### 中期取組目標

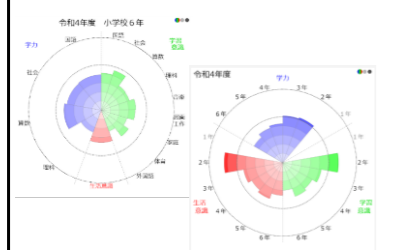
・教職員は、子どもがいきいきと自信をもって学べる学校づくりを推進します。  
 ・地域のあいさつ運動と連携して、自ら進んであいさつができる子どもを育てます。  
 ・異学年ペア活動を通して子どもが自分のよさや友達のを認め合い、高め合えるように寄り添った指導をします。  
 ・地域の教育力を活用し、子どもに豊かな教育活動が提供できるようにします。  
 ・児童指導の課題、いじめ防止について教職員で共有し、チームで対応する体制づくりを整えます。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	○知識・技能を身に付けるとともに、それらを活用して主体的に問題解決をし学びを深めたりできるように、カリキュラムを見直しながら授業づくりを進めます。 ○子ども同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら学ぶ場をつくり、考えをより深められるように工夫します。
担当	評価・重点研究委員会

#### 学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態  
 昨年度4月に行われた横浜市学力・学習状況調査では、次のような結果であった。(R4年度5年生: 現6年生)



横浜市の平均と比較すると、主要4教科の学力が市の平均より低い。また学年が上がるとともに学力が上がるにつれて学習意欲が下がっていく傾向が見られた。  
 国語に関しては、多くの学年で、「写真や文などから理解したことに基づいて、自分の考えをもつ」問題について市の平均より低いことから、複数の情報を関連付け、自分の考えをもつことができるように授業改善をしていきたい。

(2) これまでの学校の取組状況  
 ・学年研やメンター研  
 ・子どもたちの実態にあった授業づくり  
 ・重点研  
 児童の実態を把握し、授業実践・報告

#### 今年度の目標

「人とつながる力」「チャレンジする力」を育てよう

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

令和4年度の反省から、「課題をもつ」「伝え合う」「基礎的な学力」に課題があることがわかった。そこで、伝え合うべき考えをもつためには、「自らの考えをしっかりとつ」ことが必要であると考え、テーマを「自ら学び、仲間とともに未来に向かう日下つ子～自分の考えをもち、伝え合う子～」と設定し、国語を通して研究を進めていくこととした。  
 研究では、子どもたちが自分の考えをもちたくなる課題や言語活動の設定、子どもたちが、言葉に注目して学んでいけるような手立ての工夫に重点を置き、目的、相手のある言語活動を通して、課題解決的に学習することや、単元計画・ワークシート・ふりかえりの工夫などを意識しながら授業づくりを進めていく。  
 また、今年度はブロックごとにテーマを決め、学年で一つの授業をつくり、事前・研究授業・事後と行うことでより研究を深めていく。

上半期

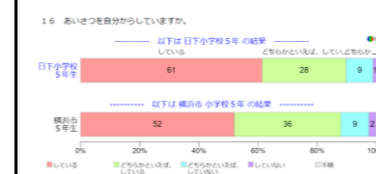
下半期

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	○教職員や児童会など学校全体の取り組みを通し、あいさつが自分から自然にできる子どもの育成を目指します。 ○特別の教科道徳の授業において、道徳的価値をしっかりとらえ、自己を見つめたり他者を理解したりする指導をします。 ○ペア活動を工夫して行い、それぞれの学年のよさを互いに認め合い、尊重する気持ちを育てます。
担当	児童指導委員会

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童の実態 (令和5年度6学年)



横浜市全体と比較すると「自分から」あいさつをしている児童の数は低い。また、児童学校評価アンケートの挨拶に関する項目でも全学年、自己評価は低く、高学年に上がるにつれてより低くなる。

(2) これまでの学校の取り組み状況

<ペア活動>  
 1年と6年、2年と4年、3年と5年がペアになり、各クラス児童が1対1(もしくは1対2)で交流をし、上学年は年下を思いやる心やリーダー性を、下学年は感謝の心を養うことができるようにしてきた。しかし、感染症対策のため、十分な交流をすることができなかった。  
 <YPアセスメント>  
 各クラスでYPアセスメントを前期と後期に行い、学年ブロックで見合い、児童の実態やそれに見合った活動を検討する。  
 <あいさつ運動>  
 運営委員会を中心に挨拶を活性化を行うキャンペーンの時期を設けている。  
 <学校生活アンケート>  
 校内人権部主導で全児童へ学校生活についてアンケートを取る。その結果を共有し、いじめの認知や学級・学年の課題を出し今後の支援・指導の方向性を考える。

#### 今年度の目標

友達やペア、教職員、地域の方々へ進んで挨拶をしたり、ペア活動を充実させたりして、人と人との結びつきを深め、自己肯定感を高めていく

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

○特別の教科道徳を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育  
 ・道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解し、大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。さらに、道徳的価値を実現したり実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではなく、多様であることを前提に人間理解や他者理解を深める力を育てる。  
 ・自己の生き方、人間としての生き方に繋がっていく発展的な思いや課題を見出し、自己の振り返りの工夫を積極的に進める。  
 ○ペア活動の充実、工夫  
 ・自分のよさや友達のを認め合い、お互いによいところを伸ばし合えるように、異学年ペア活動を工夫し、充実させて、自己有用感を高められるようにする。  
 ・見直しをもって、年間を通して計画的にペア活動を行っていく。

上半期

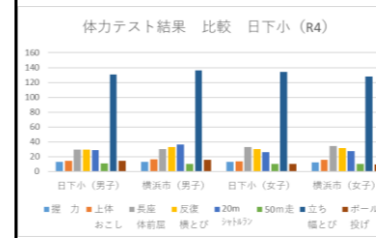
下半期

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	○新しい生活様式の中で、体育の授業づくりを工夫して行い、進んで運動に取り組める子の育成に努めます。 ○委員会活動等で外遊びを中心とした集会を計画し、積極的に運動する機会を設定します。感染症対策を行い、自分や友達とのかかわり方や健康保持について意識を高めます。
担当	体力向上委員会

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童の実態



横浜市の平均値と比較すると、男女とも全体的に数値は低くなっている。上体おこしや立ち幅跳びなどでは筋力、反復横跳びでは俊敏性、20mシャトルランでは持久力に課題があると考える。感染拡大を防ぐため、外遊びができる時間が例年より減っている現状もあり、児童がのびのびと体を動かす機会の確保が減少していることも一因と考えられる。体育学習をはじめ、運動の機会を増やすだけでなく、家庭でも体を動かし健康体力の向上に努めることができるよう、学校として発信を強化していきたい。

(2) これまでの学校の取り組み状況  
 <学校保健委員会・運動委員会・保健委員会>  
 ・スポーツリズムトレーニングなどを取り入れた遊びを委員児童とともに全校に提案したり、姿勢をよくするための体操や啓発の動画、振り返りなどを実施したりした。  
 ・適切な運動機会の確保や意欲の向上をねらいとして、ボールを使った「的当て集会」や、「長縄集会」など感染症対策をしながら行った。  
 ・季節ごとの健康課題に合わせた活動の実施

#### 今年度の目標

人とのつながりを大切にしなが  
 運動の機会と健康保持・増進について意識を高めよう

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

<体育科の取り組み>  
 ・一人ひとりが主体的に運動に取り組む、できる喜びや協力して課題を解決する楽しさを味わえるような授業づくりの工夫  
 ・子どもが主体的に運動に取り組めるようなめあて学習を推進する。  
 ・単元配列を工夫して、いろいろな運動に取り組めるよう計画を工夫する。  
 ・自分の体の変化や成長を実感したり、けがや病気の予防について理解を深めたりできるように養護教諭、栄養教諭との連携を工夫する。  
 <学校保健委員会・運動委員会・保健委員会での取り組み>  
 ・「手洗い強化月間」など、普段行っている感染症予防を見直す機会を設け、活動や動画の視聴などで啓発をする。  
 ・校内での怪けが多いので、「廊下を静かに歩こう」や「教室での過ごし方」を動画の視聴などで啓発をする。  
 ・適切な運動時間の確保や意欲の向上をねらいとした「的当て集会」や「長縄集会」の実施  
 ・季節ごとの健康課題に合わせた活動の実施の継続

上半期

下半期